

策が急務だと考えるが、現状と今後の取り組みについて伺いたい。

答 繁華街や観光地周辺の公園では、公園内飲酒者が多い傾向にある。

公園内飲酒そのものは条例で禁止していないが、迷惑行為防止については、より実効性のある対応が求められており、現在、丸山公園への防犯カメラの設置について警察署などと協議を行っている。防犯用の監視カメラという位置づけではあるが、迷惑行為に対しては一定の抑止効果が期待できると考えている。今年度中に丸山公園に設置できるように調整を行い、その運用状況を検証しながら、他の公園への設置を行っていききたい。

地域おこし協力隊の任用期間終了後における定住希望者への具体的支援

問 地域おこし協力隊の任用期間終了後における定住希望者への具体的支援について伺いたい。

答 総務省が制度を創設した地域おこし協力隊は、任期が最長3年で、任期終了後に配置された地域に定住・定着することで継続的な地域の活性化や定住人口の増加にもつなげようとするものである。国では、地域おこし協力隊

活動への財政支援措置の対象経費の中に、定住に向けて必要となる研修・資格取得等に要する経費に加え、空き店舗や空き家の改修といった活動拠点や住環境整備に要する経費を平成24年度から盛り込み、定住に対する支援の拡充を行った。国の支援措置を踏まえ、地域おこし協力隊員の定住に向けての意向や準備状況にも十分配慮し、必要な支援ができるよう努めたい。



▲地域おこし協力隊の皆さん

明政・自由クラブ

東長崎地区における新幹線及び
高速道路の工事対策

問 東長崎地区では、新幹線と高速道路の工事が始まるうとしている。地域へ多大な負担となる粉じん等の対策や地域の要望を具現化することが、市の役目であると思うが、考えを伺いたい。

答 同地区は、「九州新幹線西九州ルート」と「九州横断自動車道長崎大分線の4車線化」の2事業が同時に進められている。新幹線や高速道路のルート

沿線の自治会などで構成する各対策協議会からは、騒音・振動などの環境対策、交通安全対策や公園など地域の基盤整備等に関する要望がなされている。鉄道・運輸機構や西日本高速道路株式会社と連携し、地元の対策協議会の皆様とも連絡を密にして、内容を精査しながら適切な対応を行い、着実な整備推進に向けて努力したい。

道路行政における
バリアフリーの推進

問 バリアフリーと円滑な交通体系の整備の観点から、今後の横断歩道の整備に対する考え方について伺いたい。

答 歩道橋や地下歩道のバリアフリー化については、これまで公会堂前や岩屋橋など歩道橋を13カ所、地下歩道を1カ所撤去し、横断歩道を設置している。交通量が多い幹線道路においては、

横断歩道の設置に伴う交通渋滞などの課題があり、いまだ実施できていない箇所がある。しかしながら、高齢者を初め交通弱者の方々の負担などを考えると、



▲大橋歩道橋

歩道橋のバリアフリー化は重要な課題であるので、特に重点整備地区内を中心に、今後とも地域の皆様の意向等を踏まえ、道路管理者や交通管理者等の関係者と協議・連携しながら、バリアフリー化の推進に努めたい。

女子ペーロンへの助成

問 長崎ペーロン選手権大会への女子チームの参加が年々減少している。今後、女子チームの参加を増やし、同大会をさらに活性化させるために、一般チームと同様に助成を行う考えはないか。

答 平成25年度の長崎ペーロン選手権大会において、出場全



▲大会に参加した女子チーム

チーム数51チームのうち女子は3チームである。女子チームの参加は平成11年度から始まっており、これまで最大9チームであったが、徐々に減少している。女子チームの参加を促し、大会を盛り上げることは、伝統行事の継承を幅広い層につなげていくためにも必要だと考えている。今後、何らかの助成ができないか、実現に向けて大会実行委員会と協議していききたい。